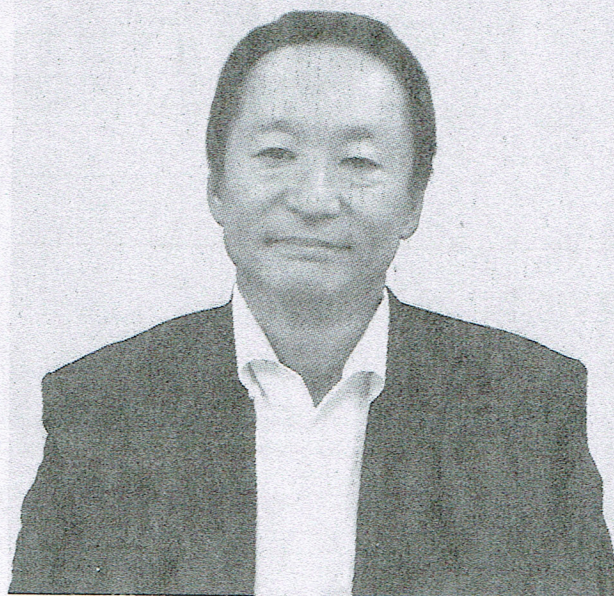


### 新春インタビュー

全国木材資源リサイクル協会連合会  
理事長



鈴木 隆氏に聞く

木質バイオマス発電所設立計画が相次いでいる中、全国木材資源リサイクル協会連合会（東京・中央、鈴木隆理事長）は、「木質チップ価格の見える化」を開始した。チップ価格の見える化は、木質チップの価格帯をオープンにすることで、市場の透明性を確保し、チップとしての価値を明確にするための試みだ。バイオマス発電事業者はもちろん、ボードメーカー、木質チップメーカーなどが懸念しているのはチップの需給だ。この点についてもチップ価格の見える化は大きな鍵を握る。（聞き手＝本紙・徳永）

#### 地域別木質チップ市場価格(2013年11月時点)

NPO法人全国木材資源リサイクル協会連合会 / 2013年12月20日

(単位=円/kg)

チップ区分 地域区分	F1 ±1.5	F2 ±1.5	A(切削) ±5	A(破碎) ±5	B・C ±3	D ±1.5	備考：市況の動向等
北海道			☆		☆	☆	
北東北						☆	・数量不足になってきたが、価格は変わりなし。
南東北				☆	1.5～6.5	-2.0～1.0	・発生量は落ち着き、価格は変わりなし。
北関東				☆	-3.0～1.5	☆	
南関東			☆	0.6～4.5	0.2～4.0	-0.2～2.0	
中関東	7.5～8.0	0.1～1.0		2.0～5.0	0.2～4.0	0.1～2.5	
東海			11.8～15.1	6.6～13.5	2.2～8.0	0.5～2.5	
北陸							
近畿			☆	5.2～10.5	2.0～5.0	1.5～2.5	・在庫は多少増えているが、価格は変わりなし。
中四国				-1.0～3.0	☆	☆	
九州				0.0～3.7	-2.5～1.7	-0.8～0.5	・Fの使用量が増えたが、価格は変わりなし。

※当連合会会員企業に対する調査をもとにしたもの

※各欄で求めた中央値を基準として、チップ区分欄の±幅の範囲内における実際価格を表示した

※☆：3社未満のもの

※空欄：取引がないもの

※Fはバイオマス証明に係るチップで、未着手の地域が多いために全国規模で表示した  
F1は未利用材、F2は一般木材

※A～Dはバイオマス証明以外のチップでマテリアル用・サーマル用が混在している

※取引単位はサーマル用がADT、マテリアル用がBDT

# 価格の見える化スタート

## RPS施行時の 混乱から検討

価格の見える化を、でも利用されていないか進めるきっかけに、つた40%を掘り起こすて教えてください。ことができたので、木も発生しました。メーカー、ユーザー、両者にとって非常に良くない状況になったのです。この時から、品質とそれに合った適正な価格を維持するために、市場の見通しを良くする必要があります。と考える、連合会でワーキンググループを作り取り組みを始めました。

RPS法の際には、特に問題となったのは、品質の区分けが明確にされなかったこと。現在高品質といわれないチップも、品質が低いものも、同等業者が考え、チップがスガ多数発生してしまっている状況が起きました。こうした場合になるものなども含め、品質と、処理費用に見合った価格がつかないこと、チップメーカーは、適正な利益を得られない影響がありました。た、建設系廃材の中

手にくくなり、発電事業者であれば不適切なチップを使用せざるを得なくなることも起き、バイオマスポイラーを痛めるなどの事案も発生しました。メーカー、ユーザー、両者にとつて非常に良くない状況になったのです。

この時から、品質とそれに合った適正な価格を維持するために、市場の見通しを良くする必要があります。と考える、連合会でワーキンググループを作り取り組みを始めました。——F-T（固定価格買取制度）が施行されることにより、バイオマス発電所の計画が増加しています。チップの供給についての不安もよく聞かれるようになり、この中でも見える化の果たす役割

## 品質と適正価格の維持

は大きいと思うのです。ブロック分けの仕方が、公表の範囲などで

鈴木 RPS施工の際、多くの議論があり、非ば、質と価格のバランスに力を注いだ部分で、スガ乱れたことが原因です。多くの協会が意図です。重要なのはチップを見出し合い、現在のプの質と価格のトータのように幅を持たせつつ、バランスを崩さない区分ごとに公表する形です。見える化になり、今後は、その部分の見通しを毎月更新し、できる限り防ぐという側面があるでしょう。

見える化としてチップ価格の公表を10月から、より適正に開始したわけですが、当初の反応はどうでしょうか。また苦勞された点などを教えてください。

鈴木 まだスタートを切ったばかりですので、数値的な部分での精度を向上させる必要があると思います。それには時間が必要で、この精度を上げることに、ユ、然、都道府県、政令市

ーサーからどう評価されるか、現在は状況を「許ね。また苦勞した点は、可」というものは自治

# 処理業から 原料メーカーへ

—そうなりますと、循環型社会という前  
メーカーは処理費とい 提で考えれば、処理業  
う形で利益を取ること というスタンスだけで  
ではなく、別の視点で はなく、製造業という  
市場を作らなければい スタンスも持たなけれ  
けないということとし ばいけません。とくに  
ようか。

鈴木 処理原価という 材は、木質チップなら  
もの、そしてその考え ばエネルギーや建設資  
方を見直すことが必要 材、あるいは砕石でも  
です。つまり処理をす 建設資材、路盤や路床  
るといふ観点だけでは など、それぞれが社会  
なく、リサイクル材と のインフラです。それ  
いう製品を作っている ぞれが極めて重要な社  
という視点です。 会基盤を構成している

マテリアル系にして ことを考えれば、品質  
も、サーマル系にして の維持というのは当然  
も製造コストというも です。そうなればそれ  
のが掛かっているわけ に見合う価格も当然必  
です。その上で輸送コ 要になります。  
ストや売却益を考慮し 製造業的な見方で言  
た上で価格を設定しな えば、仕入れ値、品質、  
ければいけません。そ それにとりまなう技術、  
の先には当然化石燃料 こういったものを総合  
やヴァージン材との比 した上での価格という  
較があり、市場になり 観点が必要になってき  
ます。

## 求められる山材使用

—価格の見える化に た数値が出てきます。  
より、間伐材などをほ 山材を出してくる業者  
じめとする未利用材、 にとっても1つの指標  
いわゆる山材の使用は となり、納入しやすく  
増えるのでしょうか。 はなるでしょうか。

—将来、建設系廃材  
の不足が懸念される中  
で、山材がどれだけ使  
われるかが今後重要に  
なってくると思いま  
す。山材がさらに使わ  
れるためには何が必要  
なのでしょう。

鈴木 山の問題を解決  
するの位置などを勘案  
することは簡単にはい  
えず、その価格は予想  
しやすくなるでしよ  
う。さらに言えば、間  
伐材が広葉樹なのか針  
葉樹なのかなどそうい  
った部分も考慮してい  
れば、よりはっきりし  
た数値が出てきます。

必要があるでしょう。  
電力価格での調整など  
も今後検討すべきです。

山材が十分に使われ  
ず、廃材利用が加速さ  
れば、マテリアルユ  
ーサーなどは大きな影  
響を受ける可能性があ  
りますので、この点は  
特に注視しています。

また、山材のほか、  
せん定枝などの生木類  
は、一般廃棄物、産業  
廃棄物の区分けが自治  
体によって異なること  
もあり、木材リサイク  
ルの壁になることもあ  
ります。理想的には木  
材専門の「木材リサイ  
クル法」のようなもの  
があれば、かなり進め  
やすくなるのは間違い  
ありません。国の政策  
としていつまでどれ  
くらい再生可能エネル

ギーによる発電を行う  
かまでは示されていま  
すが、特にバイオマス  
発電について、それに  
関するプロセスは十分  
に示されているとは言  
えません。これまでの  
例も含めて、どのよう  
なプロセスでチップを  
どれだけ調達し、どれ  
くらい発電するのか、  
政策ベースでそこまで  
示されれば、山材がバ  
イオマス発電に使用さ  
れやすくなると思いま  
す。

—連合会の今後の取  
り組みを教えてください。

鈴木 まだF-I-Tが開  
始されて2年目です。  
大きな動きが出てくる  
のはこれからです。今  
回公表した木質チップ  
価格についても、現場  
を注視して品質、価格  
ともに精度を高めてい  
くことが重要だと考え  
ています。

—本日はありがとうございました。